

新年のごあいさつ

郷土の強みに磨きをかけて

佐渡市長 高野 宏一郎



新年あけましておめでとうございます。市民の皆さまには健やかに新年をお迎えることとお喜び申し上げます。昨年10月には台風18号の強風による作物被害、11月には、温暖化のせいか加茂湖で赤潮プランクトンが異常発生し、カキ生産に甚大な被害が発生しました。直ちに新潟県とともに支援策を打ち出したところですが、生産者の皆さんが一日でも早く通常の生産生活に戻れるようお願いできません。

また、昨年8月の総選挙で政権交代となり、日々報道されているように、新政権もまだ安定したとはとていえず、昨年11月に前原国交大臣にお会いしたとき、離島についてはその重要性に強い関心を持っていただきたき、ひとまずは安心しました。

佐渡市も世界的な不況の影響により景気は最悪の状態です。合併後5年を経過したこともあり、佐渡市の現状と今後を分析し、市民の皆さまが安心できる将来像を示す「佐渡市将来ビジョン」を策定しました。

佐渡市の将来を考えると、歳入の半分を占める国からの交付税は、合併の特例措置が終わる平成31年度には本年度の7割程度に減少します。歳入が減ればそれに見合うように人件費の削減や公共施設の統廃合などにより歳出を圧縮する「歳出・歳入改革」はどうしても必要です。

しかし、圧縮ばかりでは佐渡の将来はありません。島の「強み」を活かして地域経済を活性化させる「成長力強化戦略」を併せて盛り込み、佐渡を活性化させるのが今発表された佐渡市将来ビジョンです。

環境で一躍有名になった佐渡市は、トキをシンボルに生物多様性社会形成へと政策を急展開させてきました。そして地球温暖化を防ぐ「環境の島」であることを一層強く発信し、島の産物のイメージを高め、島の収入を増やします。

また「世界遺産」登録を視線にとらえ、景観条例を整備し、特色ある自然、特に他に類を見ない杉の原生林の魅力を全国に、いや全世界に広めます。

佐渡の長年の悲願で議会の全面協力をいただいた飛行場2000m化、羽田への空路開設も今年は歴史的な第一歩の年にするよう全力投球いたします。また、昨年成功したトキの第2次放鳥によって今年こそは野生下での雛誕生に期待は盛り上がっています。

新しい年は市民の皆さまとともに郷土の強みにさらに磨きをかけ、夢と活力ある佐渡市を作り上げていきたいと考えます。佐渡市発展のため、一層のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、この年が市民の皆さまにとって実りの多い年となりますよう、心からお祈り申し上げます。新年のごあいさついたします。